

研究主題

主体的・対話的で深い学びにつながる授業と評価
～学びあいの学習を通して～

研究計画

本校校内研究部では、現行学習指導要領の令和3年度全面実施に関連付け、その前後3年間を通した研究主題を設定した。各年度において研究主題の具体化したテーマを設定し、研究に努めた。

令和2年度：学習指導要領改訂のポイントの把握と授業実践に向けて

令和3年度：第3観点に着目した授業づくりと評価について

令和4年度：主体的・対話的で深い学びにつながる授業と評価の実践

令和2年度の取り組み

令和3年度からの新学習指導要領の全面実施に向け、本校としてスムーズなスタートがきれるように校内研究を推進した。横浜国立大学附属横浜中学校研究主任の池田純教諭を招いての講義、小田原市教育委員会の指導主事を招いての授業研究を重ね、少しずつではあるが求められる教師の授業力が理解できた。また、それに連動して評価検討委員会を立ち上げ、指導と評価の一体化を更に充実するとともに、次年度の「千代中学びプラン（各教科年間計画）」の見直しに着手した。深い学びへ向かうためにはどのような課題や教材を扱えばよいか、どのような単元計画の立て方が適切か、どのように評価するかという具体は、次年度の取り組みとした。



【授業提案】

令和2年11月16日（月）

第1学年 社会科 産業の発展が急速に進む南アジア

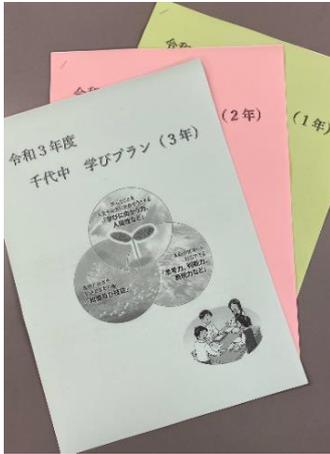
東アジアの文化や産業は、国によってどのような違いがみられるのかを考える授業である。本時は、インドでICT関連産業が急速に発展した理由から、インドのさらなる可能性について考えることを目標とした。前時の授業の最後にインドに対するイメージを問い、本時の授業を終えるときにそのイメージの変容をワークシートから見とった。NHK for Schoolの映像を用いる等、視覚教材を効果的に活用した授業構成であり、生徒が学習課題に主体的に取り組みながら自ら考えを深める手立てが盛り込まれた授業であった。



*前年度までの「千代中学びプラン（各教科年間計画）」の大幅な変更

各教科における年間計画には、「どの時期に」「どの順番で」「どのような力をつけるのか（学習内容）」を明記し、生徒自身が見通しをもって学習できるように工夫した。また、各教科の年間カリキュラムを学年ごとに一覧表にし、教科横断的な視点で年間の学習内容を捉えられるようにした。

第1学年 理科 年間計画・評価計画



月	単元名	つきたい力		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元1 生物の世界				
4	【1章】身近な生物の観察	ルーペや双眼鏡、双眼実体顕微鏡の操作、スケッチの仕方や記録の取り方を身に付けている。	身のまわりの生物について観察し、生物の特徴と共通点と相違点を見出して表現している。	学校の周辺に生活している生物の観察を行い、生物の生活を調べてみる。
学習する単元名・題材名		「単元」「まとまり」ごとにつきたい力を箇条書きで示す		
5	【2章】植物のなかま	花の基本的な植物と裸子植物の特徴を理解し、その知識を身に付けている。	点や相違点に基づいて、植物を分類できることを見出し表現している。	科学的に調べようとしている。また、葉脈や根を芽生えの様子と関連付けて探求しようとしている。
行う時期の予定		何をjいて見とるのかを示す		
6	【3章】かま体のつくり	動物動物分類	小テスト、単元テスト、定期テスト、パフォーマンステスト	ワークシート
単元2 物質のすがた				
7	【1章】いっすいさが物質	有機物と無機物、金属と非金属など身のまわりの物質	物質のすがたについて規則性を身じだし、科学的に	身のまわりの物質や気体に関する事物理等に准じて関

第2学年 年間カリキュラム

G...ガイダンス F...単元の振り返り 朱文字は「総合」と関連できそうな内容。

科目	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	広がる学びへ ふるなだけ アイスプラネット 化素子	多様な視点から カタマリと解り易い模型を作る 魅力ある授業をしよう	言葉と向き合う 短歌に思いを 言葉の力	人間のせすか 言葉と向き合う 手のない足音	論理を捉えて いじいしめを解る いじいしめを解る いじいしめを解る	いじいしめを解る いじいしめを解る いじいしめを解る	表現を見つめる 表現を見つめる 表現を見つめる	表現を見つめる 表現を見つめる 表現を見つめる	表現を見つめる 表現を見つめる 表現を見つめる	表現を見つめる 表現を見つめる 表現を見つめる	表現を見つめる 表現を見つめる 表現を見つめる
社会	第3章 国家発展の歴史と世界の動向 第2章 戦後から国際社会へ 第1章 戦後から国際社会へ	第3章 日本と世界の関係 第2章 日本と世界の関係 第1章 日本と世界の関係									
数学	第1章 式の計算	第2章 連立方程式	第3章 1次関数		第4章 図形の性質の調べ方	第5章 三角形と四角形	第6章 確率	第7章 データの利用	第8章 データの活用	第9章 データの活用	第10章 データの活用
理科	化学変化と原子・分子		生物の体		つくりとまらさき						
英語	Unit 1 Lisa's Day	Unit 2 Helen's Day	Unit 3 Dinner at the Restaurant	Unit 4 Philly's Summer	Unit 5 Tour in New York City	Unit 6 Earthquake & Drill	Unit 7 Word Experience	Unit 8 Amazing Australia	Unit 9 Staging Musical	Unit 10 Staging Musical	Unit 11 Staging Musical
総合	SDGs										
音楽	【歌唱】真の思い出 【器楽】フーガト探偵	【歌唱】真の思い出 【器楽】フーガト探偵	【歌唱】真の思い出 【器楽】フーガト探偵	【歌唱】真の思い出 【器楽】フーガト探偵	【歌唱】真の思い出 【器楽】フーガト探偵	【歌唱】真の思い出 【器楽】フーガト探偵	【歌唱】真の思い出 【器楽】フーガト探偵	【歌唱】真の思い出 【器楽】フーガト探偵	【歌唱】真の思い出 【器楽】フーガト探偵	【歌唱】真の思い出 【器楽】フーガト探偵	【歌唱】真の思い出 【器楽】フーガト探偵

令和3年度の取り組み

新学習指導要領が全面実施となり、改訂の趣旨の理解に努めながら、新しい時代に必要となる資質・能力を育むために「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で授業改善を進めた。令和2年度に引き続き、先進校の教員を講師として招き、改訂の基本方針や具体的な授業と評価に関する講話を通して理解の深化を図った。



令和3年度は、年間計画と単元計画に基づく授業を展開するため、更新した「千代中学びプラン」を学年ごとに作成して配付した。また、千代中学びプランの具体である単元計画表を各教科で配付し、生徒が見通しをもって粘り強く学習に取り組む力を身に付けるための方策として実践した。加えて、単元のまとまりごとに「振り返り（単元学習状況確認票の配付）」を実施することや、本校の定期テストと単元テストの在り方を改める等、生徒の学力の定着や意欲の向上につながる授業のあり方も研究・実践した。

【授業提案】

令和3年11月16日（火）

第3学年 保健体育科 球技・ベースボール型（ソフトボール）

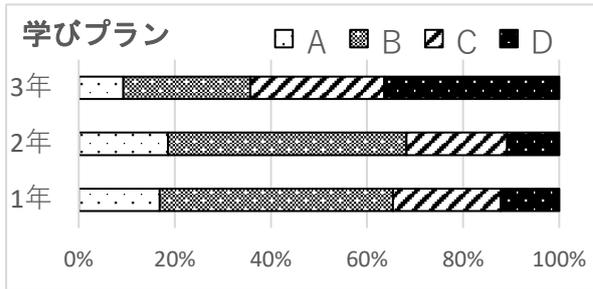
球技を通して、得た知識や技能、経験等を生かして、ともに学び合うことをめざした授業である。本時は、仲間を進塁させる方法を個人やグループで考え、仲間の挑戦を讃え合うことを目標とした。発達段階に応じてルールを設定し、全員が攻防に参加できるように工夫した。生徒の技能には個人差があるため、技能に応じて自らの課題を設定し、チーム内で協力しながらその課題を解決していくように促した。チームで協力しながら思考・判断し表現することで喜びを分かち合える生徒が多く、学び合うことの必要性を確認できる授業であった。



***千代中学びプランと単元計画の提示に関する成果と課題**

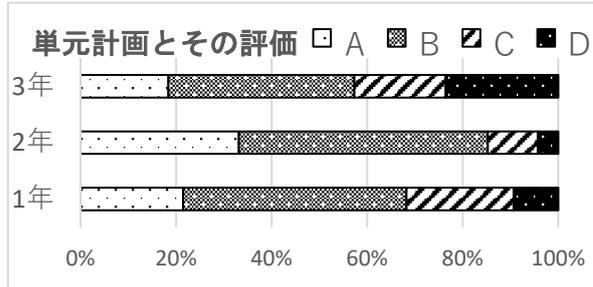
令和3年度末には、学びプランと単元計画、評価（単元学習状況確認票）について、成果と課題の検証のため全校生徒にアンケートを実施した。アンケートでは、肯定的に回答する生徒の割合が多く、見通しをもって学習に向かう姿勢を見とることができた。加えて、生徒が単元ごとに自らを振り返ることの有効性を感じる等、どのように学ぶかというイメージをもつことにもつながっていたように感じる。また、単元のまとめりごとに行う評価活動の有効性等は、引き続き丁寧に生徒や保護者へ説明していくことが必要であることも確認できた。

①「千代中学びプラン（教科年間計画）」は、あなたの学習に役立ちましたか。」



理由	記述が多かったもの
A	計画的に学習できた。目標が明確になる。見通しが持てる。
B	目標が明確になった。予習しやすい。計画的に学習できた。
C	見ていない。見なかった。
D	見てない。覚えていない。学びプランがわからない。

②「単元計画とその評価（単元学習状況確認票）」は、あなたの学習に役立ちましたか。」



理由	記述が多かったもの
A	次への改善点がわかった。自分の学習を振り返れる。計画がわかりやすい。
B	評価がでることで反省ができる。その単元に絞り学習ができる。自分の課題がみつかると。
C	単元計画をあまり見ていない。
D	見ていない。わからない。

令和4年度の取り組み

昨年度までの積み重ねを基にした授業研究を通して、指導と評価の更なる改善を図った。これまでも大切にしてきた年間計画と単元計画を活用した授業を継続して実践した。学習のまとめりごとに行う「振り返り」の方法や、生徒への学習課題の問い方等、授業研究を通して職員間で意見交換を重ねた。第3観点に関しては、本校の共通した評



価項目（ルーブリック）の作成をめざし、本校全体で取り組んでいる形を示そうと努めた。また、粘り強く学習に取り組む態度や自己調整力の適切な見とり方について、より効果的な方法を研究した。

【授業提案】

令和4年11月14日（月）

第2学年 国語科 「立場を尊重して話し合おう」

～討論で多角的に検討する～

地域や社会に目を向けて討論のテーマを決め、賛成側と反対側に分かれて討論をする授業である。互いの意見の共通点や相違点、話し合いの論点を踏まえて話すことや、進んで互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論することを目標とした。生徒は前時までに自分の立場における意見とそれを支える根拠をまとめ、本時の授業で活発な意見交換を行った。異なる立場の意見を想定して反論に備えて討論させたことで、多様な価値観に触れ、試行錯誤を重ねることができ、深い学びにつながる授業であった。



*本校の第3観点の評価項目（ルーブリック）について

第3観点に関する評価項目を作成し、職員間での共通認識を図った。特に、本校では第1観点と第2観点を踏まえながら自己調整をしている姿を見とれる評価項目の形をめざした。

A	Bの内容に加え、具体的な例を用いて理由を示したり、留意点に触れながら整理したりする等、より良いものをめざして試行錯誤している。
B	<p>1 獲得した知識や技能を用いて表現したり、2 課題を理解して学習に取り組んだりしている。</p> <p>①第1観点・第2観点をふまえた述べ方 ②自己調整…粘り強さ、見通しをもった学習</p>
C	問いに対する答えや課題への学習が不十分である。

この考え方をベースに、ルーブリックの詳細は各教科の特性に応じて修正していくものとしている。

3年間の研究を振り返って

成果に関しては、内容の改善を重ねた千代中学びプランや、各教科で統一して取り組んだ単元計画表の配付を通して、全教科で生徒自身が見通しをもって学習する環境を提示できた。また、単元学習状況確認票による「振り返り」を通して、生徒自身の現状把握とともに「自己調整」や「粘り強く学習に取り組むこと」への必要性に気付かせることができた。加えて、特に第3観点の評価に着目しながら研究を進めたことで、単元計画の立案の際に「単元を貫く問い」を設定することの重要性や、生徒への評価項目の明示の重要性等、明確にできた点がいくつも挙げられた。第3観点の評価項目については、第1観点と第2観点を踏まえた評価をめざして本校としてのルーブリックを作成する等、職員全体で評価の課題を共通認識しながら取り組むこともできた。

今後も、主体的・対話的で深い学びにつながる授業の在り方や、より適切な評価方法等の検討を重ねたい。各教科が独自性を生かしながら、生徒がより良く学べる授業の実践に努めたい。

令和4年度 校内研究部

校長 栢本 尚之 教頭 宮坂 宗篤

研究推進委員 星野 靖仁 関野 志展 西山 佳実 鍛代 佳那 鯉淵 一輝 岩本 絵理子